

12 難治性放射線直腸炎に対する 漢方薬の使用経験

愛媛大学医学部泌尿器科

福本 哲也、塩出 涼、鈴木 大一郎、信森 祥太
杉原 直哉、佐伯 佳央里、山川 真季
河野 玲奈、渡辺 隆太、野田 輝乙、西村 謙一
三浦 徳宣、宮内 勇貴、菊川 忠彦、雑賀 隆史

【目的】前立腺癌の根治的治療法には、外科的な前立腺全摘除術と放射線療法がある。以前は手術成績と比較して放射線療法による腫瘍制御率は不良であったものの、その成績には線量依存性があることが理解され、治療技術の進歩に伴って安全な高線量照射が可能になると、重要な治療選択肢の1つとして位置づけられるようになった。一方で、有害事象として膀胱直腸障害に注意が必要となった。

【現病歴・臨床経過】症例は70歳男性、cT2の限局性前立腺癌に対しIMRT(80Gy/40fr)施行した。治療終了1年後より直腸出血をきたし、消化器内科で大腸カメラで放射線性直腸炎の診断を受け、内科的治療開始も難治性であった。RTOG-EORTC Grade IIIの合併症と診断され、人工肛門造設術を勧められた。大建中湯の腸管運動亢進作用と腸管血流量増加作用、抗炎症作用に関する論文をもとに腸管粘膜の再生に寄与すると考え、大建中湯を開始したところ、次第に出血が軽減し粘膜異常も改善された。

【結語】難治性放射線直腸炎に対して大建中湯が有効であった1例を経験した。文献的考察を含め報告する。